

# 三重の文化振興方針（仮称）

（骨子案） - たたき台 -

## 目 次

	ページ
第 1 章 三重の文化振興の考え方	1
( 1 ) 文化とは	
( 2 ) 文化振興の意義・目的	
( 3 ) 文化振興の対象範囲	
( 4 ) 文化振興の施策領域	
( 5 ) 文化振興の推進主体	
第 2 章 三重の文化振興の方向	3
( 1 ) 基本目標	
( 2 ) 文化振興を進める視点	
( 3 ) 文化振興の方向	
第 3 章 三重の文化振興の基本方針	5
( 基本方針 )	
1 「文化と知的探求の拠点」づくり	
2 県民一人ひとりの身近な「場」を拓き、つなぐ	
3 施策をつないで取り組む	
4 県全体の文化振興を進めるしくみ、体制へのチャレンジ	

はじめに ～なぜ今文化振興か～

文化振興策検討に至る「県の考え方」を最終的に記述します。

## 第1章 三重の文化振興の考え方

### (1) 文化とは

文化とは、「人間が自然とのかかわりや風土の中で生まれ育ち、身に付けていく立ち居振る舞いや衣食住をはじめとする暮らし、生活様式、価値観など、およそ人間と人間の生活にかかわるすべてのこと」(文化芸術振興基本法)とされています。

文化とは、人間社会のなかで生まれ、発展するものであるということがいえます。このため、文化を創造し、高め、ひろげていくのは、私たち一人ひとりであり、三重に住む私たちが、地域の文化を創造し、つなげ、発展させていくものと考えられます。

### (2) 文化振興の意義・目的

#### (意義)

県民一人ひとりにとって、文化に触れ親しみ、自ら創造し表現することは、自分をみつめ、他人を思いやり、自分たちの暮らす社会に目をやることに繋がります。文化を振興することにより、一人ひとりが成長し自己実現でき、人と人との絆や地域を思う心が育ちます。

文化は、先人から受け継いだ私たちが創造し、発展させていくものです。文化には、私たちの暮らしや考え方、地域の特徴が表れています。文化を振興することにより、一人ひとりの人間力や創造力が高まり、地域のもつポテンシャル(潜在的な力、可能性)を高め、地域のアイデンティティ(個性)がより明確になり、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な地域づくりに繋がります。

#### (目的)

このように、文化振興を進めることにより、県民一人ひとりの成長と自己実現をはかるとともに、地域のポテンシャル(潜在的な力、可能性)

を高め、アイデンティティ（個性）を明確にし、より豊かで暮らしやすく、魅力ある三重県を築き、発信していきます。

### （３）文化振興の対象範囲

芸術、文化財、伝統芸能など、「文化芸術振興基本法」に例示されている対象範囲のほか、景観、環境・自然、食文化など暮らしに関わるさまざまな文化など、文化振興の目的にそって文化の範囲を幅広くとらえます。

### （４）文化振興の施策領域

文化振興の目的から、文化振興の取組は、幅広い施策領域のもとで展開される必要があります。

例えば、生涯学習、学術・研究、伝統工芸、産業振興、観光振興、地域づくり、景観づくり、環境保全・自然保全、食文化などに関する施策を総合的に展開させていくことが求められます。

（このため、）文化振興を進めていくためには、総合的な視点に立って、取組を展開していくことが必要です。

### （５）文化振興の推進主体

文化振興を進めていくうえでは、まず一人ひとりが、多様な文化に触れ親しみ、自ら主体的に活動していくことが大切であるとともに、団体として活動を展開し、ひろげ、深め、高めていくことが求められています。一人ひとりや団体の活動を支え、発展させていくためには、行政や企業などの役割が重要です。

県や市町は、県民一人ひとりや団体等の活動を支援するとともに、文化活動とその成果をよりひろげ、高めていくための環境づくりを行うことが必要です。

企業等も、文化の振興が地域や人類の発展に寄与することを踏まえ、文化振興のための取組を一層進めていくことが求められます。

各種団体やNPOは、行政や企業と協力しながら、身近なところで県民の活動を支援する活動を今後もっとひろげていく必要があります。

## 第2章 三重の文化振興の方向

### (1) 基本目標

県民一人ひとりが、文化を 過去から未来への世代間のつながり、 個から世界を往来する空間のひろがり、のなかでとらえ、吸収することで、自らの生き方を確立し、社会の一員として、今、あるいは未来に向けて文化を継承発展させていくような主体として行動しているすがたを基本目標とすべきと考え、下記の3つの案を基本目標として提案します。

A 案 “過去から未来へ - 世代のつながり - ” が、地域への愛着と誇りを育み、“個人から地域、そして世界へ - 文化のひろがり - ” が、人の知的好奇心をかき立て、感性を豊かにし、さらに新たな未来を創造する、そんな三重をつくります。

B 案 過去から未来、個人から世界、その結節点としての「地域の今」を創造的に生きる人と文化を育みます。

C 案 次世代への継承と創造、地域から世界へのひろがりを大切にした「三重の人、文化を育む土壌づくり」

### (2) 文化振興を進める視点

基本目標に向けた取組にあたっては、次の視点を明確にして取り組みます。

協働(パートナーシップ)の視点、誰もが(アクセス権の保障)の視点、文化の多様性の視点、ユニバーサルの視点、文化における「グローバル」、「ローカル」の視点、評価の視点など

### (3) 文化振興の方向

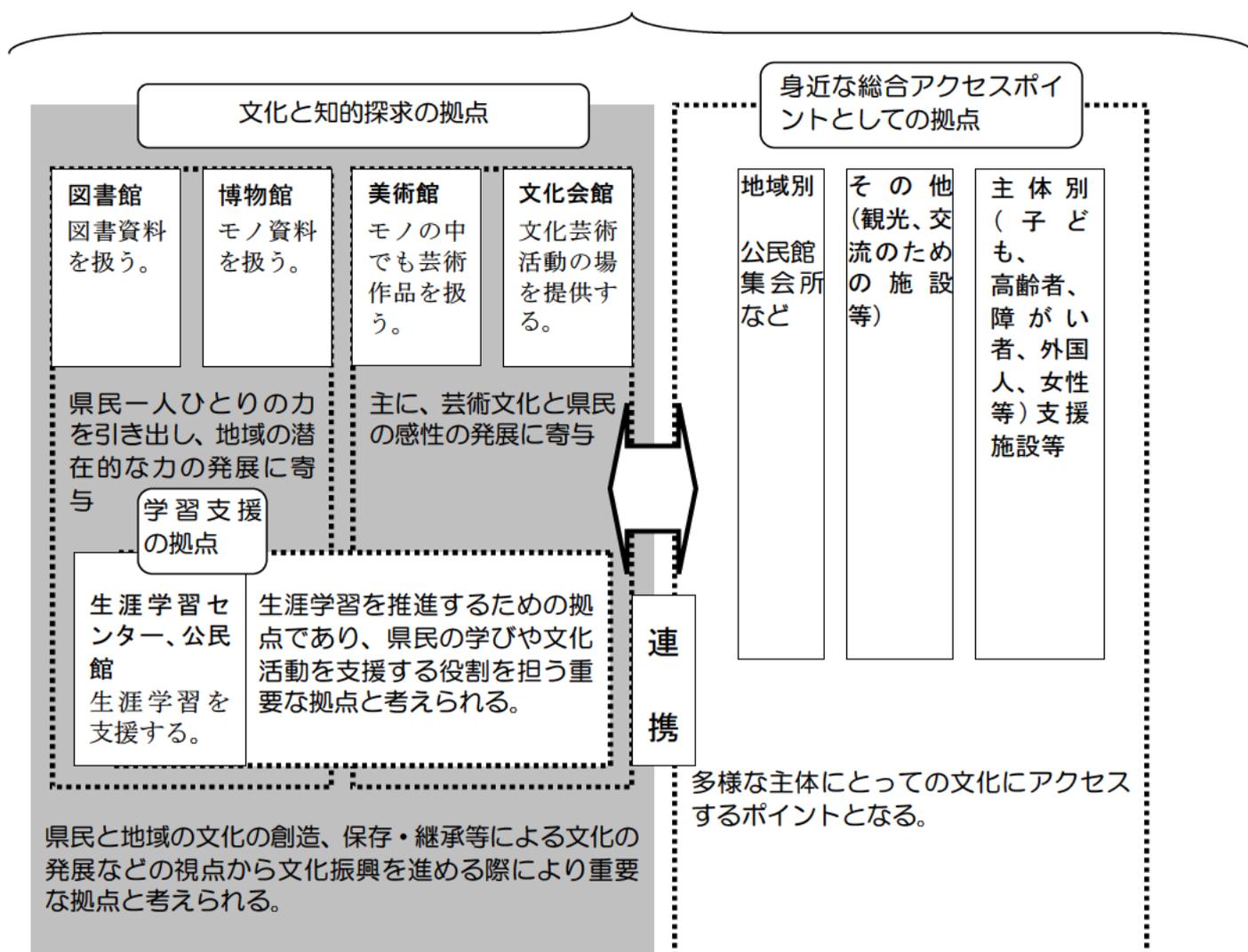
～拠点からひろげ発展させる人と文化を育む土壌づくり～

県民一人ひとりが文化に触れ親しみ、人としての成長と自己実現の場と

なり、人と人、文化と文化が集い、交流し、高め合う場としての「文化振興拠点」に着目します。なお、「文化振興拠点」とは、具体的には、県内の図書館や博物館などの文化施設、その他の公共施設をイメージしています。

- 「文化振興拠点」のなかでも、文化振興にとって特に重要と考えられる「図書館」「博物館」「美術館」「文化会館」「生涯学習センター等」を「文化と知的探求の拠点」と位置づけ、各施設の機能の充実強化と全体最適の視点から連携等の取組を進めます
- 県民の文化への身近なアクセスポイントとなる拠点から、専門性の高い文化と知的探求の拠点まで、県内のさまざまな拠点が、互いに連携しながら、総合的に人と文化を育む環境が整うように、個々の拠点の充実強化、連携による機能向上などを進めます。
- 「さまざまな施策と連動した総合的文化振興の取組」を念頭において取組を行います。

☆ 「文化振興拠点」間の役割連携のイメージ  
総合的に文化振興に寄与



## 第3章 三重の文化振興の基本方針

### 【基本方針】

#### 1 「文化と知的探求の拠点」づくり

「人と文化を育む土壌づくり」のための中核的な取組として、文化振興拠点のなかでも、県が設置し、特に重要と考えられる「図書館」、「博物館」等「文化と知的探求の拠点」の役割や特徴を踏まえた機能の充実強化、連携等を進めます。

#### (考え方)

文化振興拠点のなかでも、文化の保存、継承、創造、発展にとって特に文化と知的探求の拠点として重要な役割を果たすことが求められている「図書館」、「博物館」、「文化会館」、「美術館」、「生涯学習センター」について、特徴に応じた役割を果たしながら、全体として効果的に機能が果たせるような施設間の連携を進めます。

特に、県域全体をカバーし、リードしていく役割をもつことが期待される県が設置する施設の文化振興拠点としての機能の充実強化を進めます。

なかでも、博物館については、施設の老朽化、狭小化、耐震化が課題となっており、地域に立脚した文化振興拠点として重要な役割を果たしていくために何が必要かを明確にしたうえで、充実強化をはかります。

(展開方向) 今後の拠点部会の検討をもとに記述します。

#### (1) 「文化と知的探求の拠点」として各施設の充実強化を進めます。

拠点部会の検討内容を踏まえながら、各施設の特徴に応じた機能の強化を進めます。

ヒント（現在までの拠点部会の検討内容）

文化振興拠点の機能の充実強化のために必要なこと

機能の充実強化のために次のようなことを充実させる必要があります。

拠点ごとの特徴をもとに、どのような機能を充実させるかなどについても明確にしていく必要があります。

### 文化振興拠点に求められる機能

文化振興拠点として以下の機能が共通に求められます。

拠点は、広く開かれた場所で、

- ・一人ひとりの生涯学習を支援する機能（学習支援）  
本人の学習ニーズに対する支援だけでなく、未来に向けて社会の一員として必要な学習内容を提供する。
- ・一人ひとりの文化活動を支援する機能（活動支援）
- ・多様な文化情報を紹介し、広める機能（情報提供）
- ・利用者等に、いかに文化に触れ親しみ、文化活動に参加してもらうかについての企画立案機能（企画立案）
- ・文化活動や人をつなげる機能（コーディネート）
- ・よりレベルの高い拠点活動を行うための機能（調査・研究）
- ・専門性をもった人材を育成する機能（人材育成）

また、これらの機能は、すべてを均等に備えるということではなく、拠点の目的、特徴等によってどの機能を優先するという考え方をすべきです。

（２）「文化と知的探求の拠点」としての全体最適を考えた拠点づくりに取り組みます。

「文化と知的探求の拠点」として、総合的、一体的に機能を果たすことができるよう、各施設の機能と連携の強化を進めます。

拠点を機能させる人材育成の考え方と実践

ヒント（現在までの拠点部会の検討内容）

拠点が機能するために必要なこと

- ・施設を拠点として機能させるためには、施設を使いこなせる県民が必要
- ・施設を機能させるための人材

施設を機能させる上で必要な専門知識をもった人材（学芸員、司書など）

コーディネーター（活動や人をつなげる人材）

インタープリター（解説や案内を行うことで施設利用を助ける人材）

管理・運営する人

ボランティアなどの支援者 など

・運営資金（基本方針4での検討内容）

・拠点を支援する組織、体制（基本方針4での検討内容）

## 2 県民一人ひとりの身近な「場」を拓き、つなぐ

誰もが文化に親しみ、学び、成長するなかで、自己実現していけるような身近な拠点の充実をはかるとともに、必要とする支援が受けられるような拠点間の連携のしくみづくりに取り組めます。

### （考え方）

地域あるいは主体別に設置されている県民一人ひとりにとっての「身近な拠点」が、身近な文化に接し、活動する場となり、必要とする支援が得られるアクセスポイントにもなるような、連携のための取組を行います。

詳細は、今後記述します。（今後拠点部会で検討）

### （展開方向）

今後記述します。

## 3 施策をつないで取り組む

一人ひとりの県民の学びを支援するとともに、地域の潜在的な

力（ポテンシャル）を高めるための文化振興策を多様な施策と連携しながら総合的に進めます。

（考え方）

生涯学習施策や集客交流施策、景観施策、農業振興施策、環境施策などを文化振興策の一環として位置づけ、連携した取り組みを進めることができるようなしくみづくり等を行います。

詳細は、今後記述します。

（展開方向）

今後記述します。

#### 4 県全体の文化振興を進めるしくみ、体制へのチャレンジ

（考え方）

今後記述します。（今後拠点部会で検討）

企業メセナ、プラットフォームなどについて検討

（展開方向）

今後記述します。

## いまなぜ三重の博物館か（県の考え方）

県は、文化の基本的な重要性を前提としつつも、「今特に必要なこととして」文化振興があり、そのミッション（使命）があると考えたため、今回の検討を行うこととしました。あわせて、文化振興のミッションを実現していくための重要な拠点として博物館の整備が必要と考えています。

### 1 なぜいま文化振興が重要なのか

文化のもつ可能性を前提に、長期的視点に立って時代潮流をみた時、県のとるべき方向性のひとつとして文化振興を位置づけることが重要であると考えました。

文化は、いつの時代にも私たちにとって欠かすことができない、大切なものですが、あえて、いま県は文化振興を通じて何をめざすのか（文化振興のミッション＝使命）ということについては明確にしておくことが必要であると考えています。

#### （1）文化振興の果たす役割

今後人と人の競争がより激しさを増すことが考えられますし、一方で地域の人と人との絆が弱くなり、家族関係が希薄になるなかで、地域のもつ総合的な力が弱くなっていく可能性があると考えられます。

また、地域主権の社会が確立するなかでは、地域を運営する一人ひとりの住民がしっかりと自分の地域を見つめ、行動していくことが不可欠となりますし、地域間競争が厳しさを増すとも言われています。

このような状況のもとで、県民の皆さん一人ひとりが、文化に触れ親しみ、文化活動に参加し、他者との共感のもとで、豊かな人間性と創造性を育み、コミュニケーション能力や感性を磨くことなどを通じて、自己を成長させるきっかけをつくる文化振興の役割は大きいと考えます。

あわせて、地域にとっても、一人ひとりの住民の力によることはもちろん、地元の人や歴史を生かした地域づくり、地元の文化を活用した商品の開発、地域の歴史、文化を連携した観光事業など、地域のもつ文化等を生かして地域力を高めることにもなります。

#### （2）県がめざす戦略としての文化振興のミッション（使命）

県民一人ひとりが文化に触れ親しむことは、自分をみつめ、他人を思いやり、自分たちの暮らす地域に目をやることにつながります。文化振興により、一人ひとりの成長と自己実現をはかり、地域の絆や地域を思う心が育つような社会づくりをめざします。

（ 県民一人ひとりの成長と自己実現のための文化振興 ）

また、文化は、地域に住む私たちが継承、創造、発展させてきたものです。私たちの暮らしや考え方、地域の特徴が表れています。文化振興により、地域のアイデンティティ（個性）を明確にするとともに、一人ひとりのもつ力の高まりによって、地域のもつ潜在的な力（ポテンシャル、可能性）を高め、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な地域づくりをめざします。

（ 地域のアイデンティティ（個性）が明確になり、一人ひとりのもつ力が地域に還元されることで地域の潜在的な力（ポテンシャル、可能性）と魅力を高めるための文化振興）

## 2 ミッションを実現していく重要な拠点としての博物館の必要性

博物館（特に県立）は、地域の歴史、民俗、自然等に関するモノ資料を扱い、これらを保存し、次世代に継承するとともに、調査研究し、展示等により広く紹介するなど活用することにより、県内外の人に三重に関わる人、歴史、自然などを伝え、未来に向けた考察のきっかけをつくる役割を果たしています。

県は、博物館に、地域の一人ひとりの地域についての学びや自己実現の場として、地域について研究と考察を深め、地域の魅力を見出す場として期待をし、三重にふさわしい博物館の整備が必要であると考えています。

## 3 文化に対する県民の意識（参考）

以下省略

(参考別紙)

## なぜいま文化振興が重要なのか(関係資料)

次のような文化のもつ可能性を前提に、長期的視点に立って時代潮流をみた時、県のとるべき方向性のひとつとして文化振興が重要であると考えました。

### (1)文化のもつ可能性

#### 文化が地域の誇りになる

自分の住む地域の人や歴史、文化、自然を知り、発見することにより、地域に誇りを持てるようになる面があると考えています。

#### 文化が人の心に働きかける

芸術文化をはじめとして、文化は感性に訴え、また、地域の文化を知り、発見することが驚きとなって人の心に働きかける面があると考えています。

#### 文化が人の絆を生む

まつりや作品づくりなどにより、互いに交流して、ひとつのものを作りあげる作業をすることや、作品やものを通じて他人のことに思いいたることを通じて、人の絆を生む面があると考えています。

#### 文化が地域の財産になる

過去や現在の文化資産は、地域のことを表し、記録し、また、地域の魅力を高め、産業振興につながるなど、地域の財産といえる面があると考えています。

### (2)時代潮流

#### 人口減少社会

人が減り、社会の活力や生産力が低下すると言われています。

#### 地方分権型社会

国から地方への権限移譲が進められる一方で、自分たちの住む地域のことは自分たちで考え、運営する、という地域主権の考え方が広まりつつありますが、一方で、このような地方分権型社会の進展は、住民一人ひとりの力や熱意や産業振興の高低や行政能力等の差が地域間の格差を生むと言われています。

#### 知識情報社会

大量生産大量消費型の産業構造から、知識情報産業が主となる、知識や知恵を活用した人材重視の産業社会に変化しつつあると言われています。

#### 能力重視社会

グローバル社会化のもとで、日本型年功序列社会から一人ひとりを能力によって評価することが産業界をはじめ日本社会のなかに浸透しつつあります。

#### 共生社会

社会の成熟化により、ユニバーサルデザインの考え方が浸透するとともに、高齢者比率の高まり、外国人住民の増加など多様な文化や考え方など、お互いを認め合う社会をつくることの必要性が言われています。

#### グローバル社会

インターネット社会の進展や科学技術の発達により、個人やもの、情報が互いに国境を越えて行き来することが、以前にも増して容易になっています。

#### 環境重視社会

地球環境の悪化が人類の存続にも影響を及ぼすということが世界的に認識されるようになり、地域レベルから国際レベルまで取組が進展しています。

#### 格差社会

グローバル化等により、日本型終身雇用の仕組みが崩れ、能力別賃金制度や非正規雇用の拡大、国際的な企業間競争のひろがり等により、賃金格差、地域間格差など、さまざまな格差が大きくなっているとされています。